

「しょうがくぶのうた」の成り立ちについて

重谷 玲衣

〈経緯〉

平成29年7月頃、6年生の卒業制作として「今後、小学部で歌い継ぐことができる曲を作りたい。」という思いから企画しました。高等部音楽科の川口教諭に作曲を依頼して、平成30年3月の卒業式で歌うことを目標に音楽制作を開始しました。

〈歌詞について〉

児童から募集した言葉や曲のイメージを6年生の担任団で組み立て、歌詞を完成させました。歌詞に収まりきらなかった部分は、セリフとして曲の前後に組み込んでいます。

また、「1年生から6年生の子どもたちの誰でもわかる。誰でも楽しんで参加できる。」ということを目指し、タイトル・歌詞ともにひらがなで表記しました。サビ部分には手話を取り入れ、歌唱が難しい児童も楽しむことができます。今後も歌い継いでもらえる1曲になれば嬉しいです。

作曲:川口 澄

〈楽曲について〉

今回は“小学部らしさを音で表現する”ことをコンセプトとして作曲をしました。そのため楽器は児童の演奏を連想するような木琴や鉄琴、鈴などを随所に入れてあります。曲の終結部はキラキラした雰囲気を出すためにウインドチャイムを響かせました。

○テンポについて

BPM=126にしています。自然と手拍子をしたくなるようなテンポ設定にしています。

○リズムについて

“ルンルン”と心が弾むようなシャッフル(3連符が中心)のビートを基本パターンとしています。

○調性について

メロディーの音域をへ長調とすることで、児童、教員、性別に関係なく誰でも歌える音域に設定しました。

○メロディーについて

サビの「みんな ちゃれんじ しょうがくぶ」から作曲しました。その中でも聴く方の心に残したい「ちゃれんじ」「たのしい」「なかよし」を上行形の完全5度音程で跳躍させることで、高揚感や頑張る感じをメロディーの音の形で表現しました。楽曲全体としては1回聴けば覚えることができ、歌いやすくするための工夫として“順次進行”のメロディー作りを意識して作曲しました。